

デザインの可能性はこんな所にも・・・僕たちも普段福祉作業所さんと一緒にモノ作りをさせて頂いてますが、アイデアとデザイン、そしてニーズが合わさればイイものが生まれます。どれかが欠けてもいけません。今までの「福祉」はその辺りが弱い気がします。今ではこういったデザイン性の高いモノが福祉の世界にも多く出て来てますよね。オシャレでカッコいい、そんな「福祉」にどんどんなっていって欲しいモノです☆

久田

第 87 回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

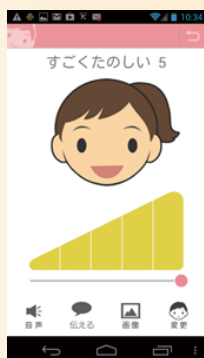
企業との連携その 2

1. 企業のもっている力を生かす

特別支援教育における知見を、企業のもつアイデア・技術と有機的に結合させ、そこに価値を見出すことはとても有効なことだと思います。

これまでの大学の研究や企業の開発するものは、自前で作り上げるものであったり、研究者同士がうまく連携できなかったり、現場のニーズに研究の成果が答えられなかったりするなど、組織を超えたリソースの活用が不十分ではなかったかと感じています。私たちの研究室が技術家庭の研究室と最初に取り組んだ、スマートフォンのアプリも、何とか動きましたが、デザイン等は自慢できるものではありませんでした。かつてよく使えるかと言えばそのようなものからは程遠いものでした。障がいがある人に使うものだからデザインはどうでもよいかということのようなことはありません。おしゃれでかっこいいものがよいのです。

写真は、富士通（株）と香川大学教育学部が共同で完成させたアプリの一つです。デザイナーが関わったり、プロの声優を使ったりするなどしてとても質の高いアプリに仕上げることができたと思っています。これだとおしゃれにかっこよく使うことができるのです。企業のもっている力を生かした連携の例だと思います。



2. 新しい展開にも

企業との連携は、新しい展開につながることも期待できます。写真はソフトバンクモバイル（株）と私たちの研究室が共同で完成させたスマートフォンです。このスマートフォンは、企業内部のアイデアを私たちの研究室で検証し、そして形にし



ようとしているものです。このスマートフォンの開発では、新たな雇用の創出もできないかと考えています。障がいのある人たちに、これらのアプリを搭載したスマートフォンの活用方法を実際に提案してもらうことと、販売の一部の業務をお願いすることで、謝礼を支払うようにするというものです。

このようなアイデアは、私たちのような大学等の研究機関だけでは実現することは不可能です。このようなアイデアを実現するための土台が必要なのです。これまで蓄積してきた企業が持つノウハウと、企業に期待されている社会貢献の使命、そして、大学などの研究成果の社会への還元がうまく融合することで、展開できるものではないかと思っています。

3. おわりに

来年の4月1日より、通称障害者差別解消法が施行され、合理的な配慮が求められるようになります。そうなれば、支援技術の利用者は大きく増えることになると思うのです。企業がそこで利益を得ることも十分可能になる時代が来ると思うのです。今後、多くの企業と連携できれば、障がいのある人がおしゃれでかっこいい支援機器を持ち、街に繰り出す機会も多くなると思うのです。そんな社会を実現したいと思っています。

坂井聡先生の紹介

（プロフィール）

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

（著書）

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里） クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会） 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など